

# しが「読み解く力」～実践編～ 【小学校 算数科】

- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



## 【小学校：算数科】

「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる  
「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりのポイント

◇数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、問題解決に向かう学習活動を設定しているか。

- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



## 単元名「あまりのあるわり算」（小学校第3学年）

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。〔知識及び技能〕
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き、生活や学習に活用しようとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



## 第1次

- ①乗法九九を1回適用する除法（包含除）で、あまりの意味と計算の仕方を理解する。
- ②余りと除数の大小関係について理解する。
- ③等分除の場面において、あまりの意味や計算の仕方を理解する。
- ④あまりのある除法の答えの確かめ方を理解する。

## 第2次

- ⑤⑥問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決する。【本時⑤】

## たしかめ問題

- ⑦基本的な学習内容を理解しているか把握し、それに習熟する。

## 第1次

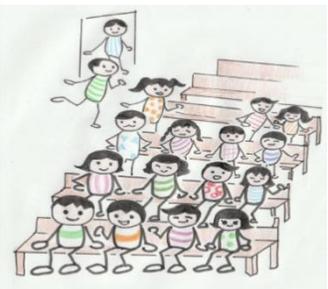
- ①乗法九九を1回適用する除法（包含除）で、あまりの意味と計算の仕方を理解する。
- ②余りと除数の大大小関係について理解する。
- ③等分除の場面において、あまりの意味や計算の仕方を理解する。
- ④あまりのある除法の答えの確かめ方を理解する。

## 第2次

- ⑤⑥問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決する。【本時⑤】

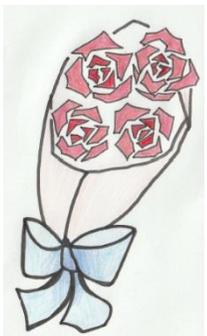
## 第5時

問題： 4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが、全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。



## 第6時

問題： バラの花が23本あります。  
4本ずつのたばにして、花たばを作ります。  
4本ずつの花たばは、いくつできますか。



- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 **本時の目標**
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



日常生活の中から数学の問題を見いだし、日常生活の問題を除法で解決した結果、余りがある場合に、算数の処理の結果である余りに着目し、元の事象に当てはめた時にどのように解釈するか考えることができる。

- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ**
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



## (1) 課題を見つける (2) 見通しをもつ

- ・問題を提示し、課題設定を行う。

問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。



35人全員がすわるためには、あまりはどうしたらよいのだろうか。

## (3) 自分で考える

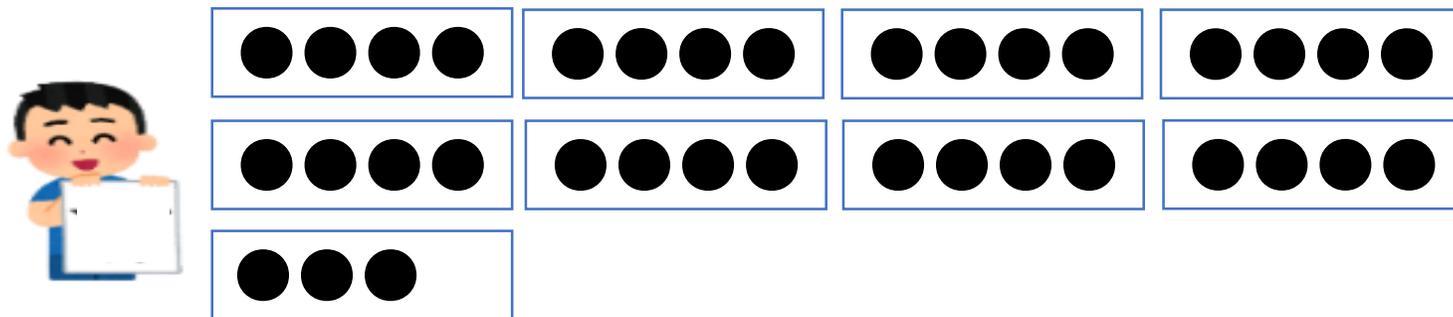
おはじきを使って考えて  
みようかな。



$35 \div 4 = 8$ あまり3だから、あ  
まりの3人にもいすが必要だな。

課題発見・解決のプロセス 課題を見つける ≫ 見通しをもつ ≫ 自分で考える ≫ 共に学び合う ≫ 学習を  
まとめる ≫ 学習を振り返る ≫ 新たな課題を見つける

## (4) 共に学び合う



$$35 \div 4 = 8 \text{ 残り } 3$$

$$8 + 1 = 9$$

(答え) 9台

## (5) 学習をまとめる

8 残り 3 の意味は…



+1 の意味は…

今日の問題の場面では、全員がすわるために、残りの3人にいすを1台持ってくるから、+1をする。

## (6) 学習を振り返る

課題発見・解決のプロセス 課題を見つける ≧ 見通しをもつ ≧ 自分で考える ≧ 共に学び合う ≧ 学習をまとめる ≧ 学習を振り返る ≧ 新たな課題を見つける



- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



- ・ 問題文から必要な情報を読み取り、場面の状況を把握して立式できる姿。
- ・ 友だちとの交流の中で、多様な考えや表現を関連付けながら、よりよい考えを導き出そうとする姿。
- ・ 交流したことをもとに、問題文の具体的な場面と問題解決の過程や結果を照らし合わせ、自分の理解を深めようとする姿。

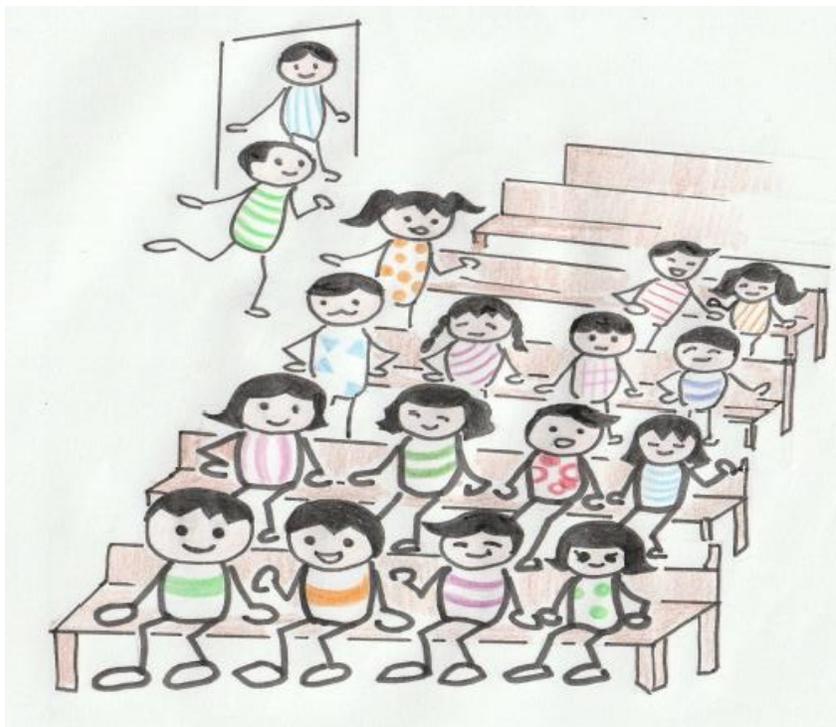


- ・ 問題文から必要な情報を読み取り、場面の状況を把握して立式できる姿。(A①)
- ・ 友だちとの交流の中で、多様な考えや表現を関連付けながら、よりよい考えを導き出そうとする姿。(A②・B②)
- ・ 交流したことをもとに、問題文の具体的な場面と問題解決の過程や結果を照らし合わせ、自分の理解を深めようとする姿。(A③・B③)

- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



# ① 目的意識をもつために



日常生活の事象から算数の問題を見いだす

児童の経験と関連させる

問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。



## ②問題文から必要な情報を読み取り、 場面の状況を把握して立式するため



問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。

分かっていることは、4人がけのいすがあるということと、35人が全員すわるということ、分からないことは、全員がすわるには、いすが何台あるかだね。



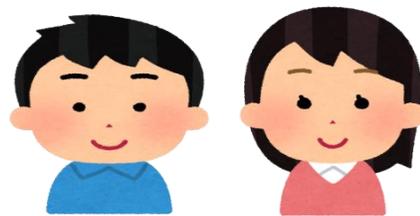
4人がけのいす = 4人1組で1台のいす。  
だから、式は・・・



問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。



4人1組で1台の  
いすだから...



式は、 $35 \div 4$ になる  
ね。  
あまりはどうするの  
かな？

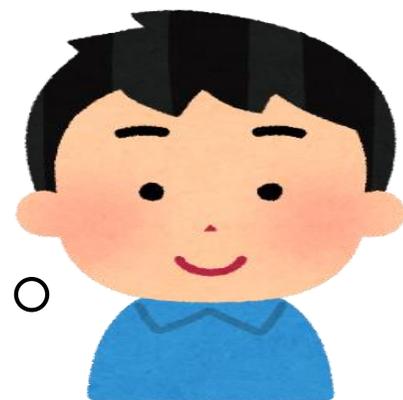


課題：文章問題の問いに答えるには、あまりはど  
うしたらよいのだろうか。



自分の考えを話したいな。  
友だちの考えを聞いてみたいな。

この問題を解決する方法を考えてみたいな。



### ③友だちとの交流の中で、多様な考えや表現を関連付けながら、よりよい考えを導き出すには



問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。

$$35 \div 4 = 8 \text{ あまり } 3$$

この続きで、想定される子ども  
もの考えは？



③友だちとの交流の中で、多様な考えや表現を関連付けながら、よりよい考えを導き出すには



問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。

$$35 \div 4 = 8 \text{ あまり } 3$$

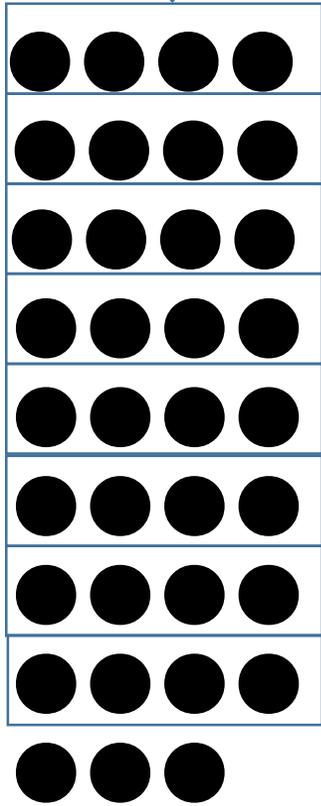
誤：A. 8台 or 8台あまり3人

誤：A. 11台

正：A. 9台 など

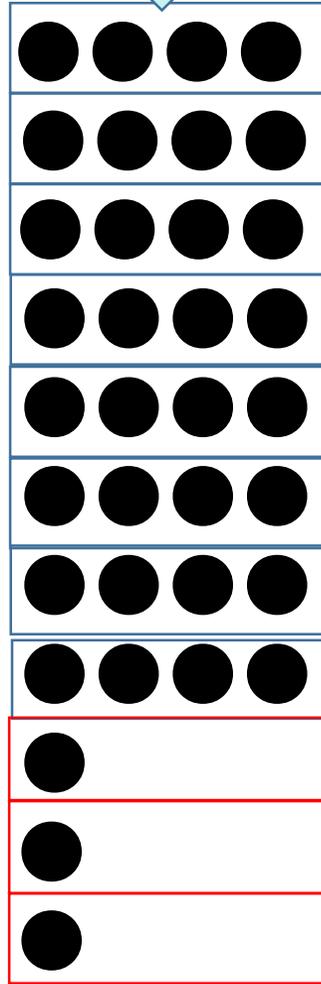


$35 \div 4 = 8$  あまり 3



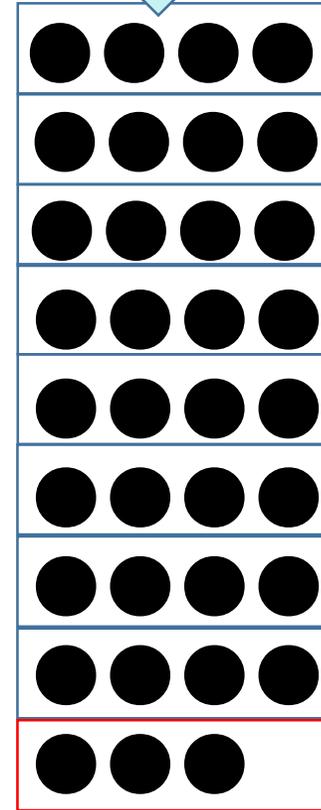
A.8台  
A.8台あまり3人

$35 \div 4 = 8$  あまり 3  
 $8 + 3 = 11$

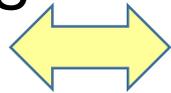
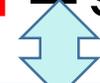
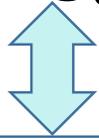
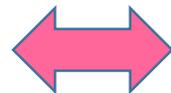
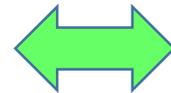
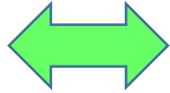


A.11台

$35 \div 4 = 8$  あまり 3  
 $8 + 1 = 9$

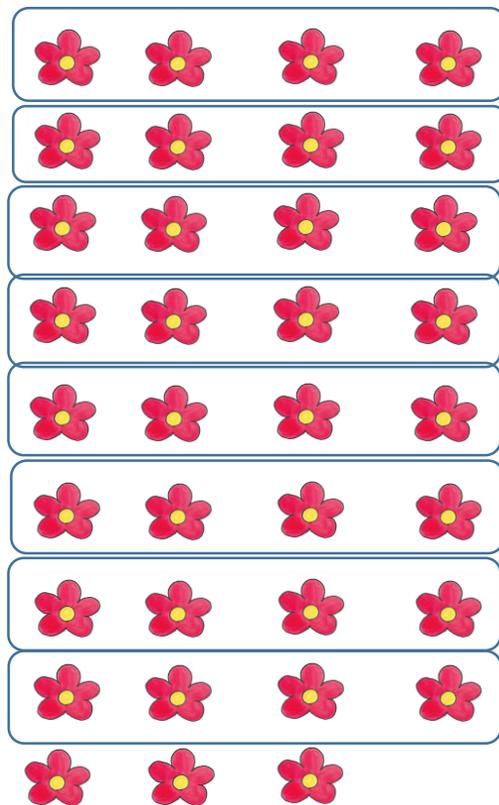
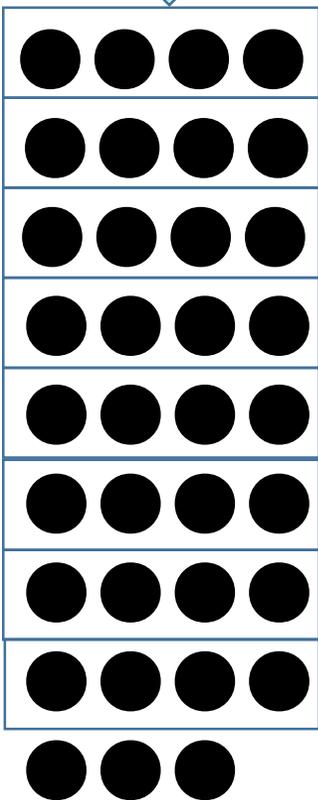
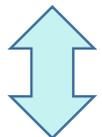


A.9台



例

$35 \div 4 = 8$ あまり3



おはじきの操作を図と関連させる

式と図を関連させる

図から商や余りの意味を考えさせる

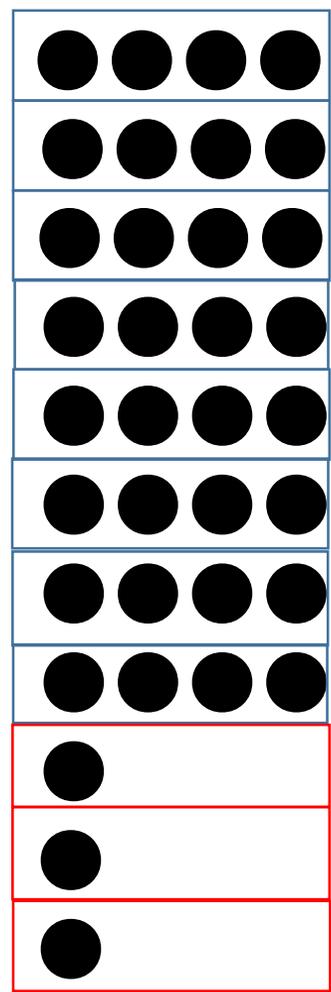
A.8台

A.8台あまり3人

例

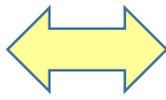
$$35 \div 4 = 8 \text{あまり} 3$$

$$8 + 3 = 11$$

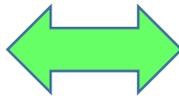


A.11台

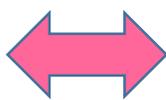
式



図

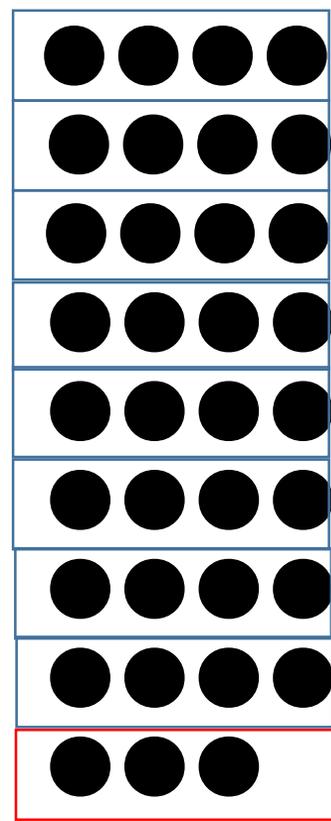


答



$$35 \div 4 = 8 \text{あまり} 3$$

$$8 + 1 = 9$$



A.9台

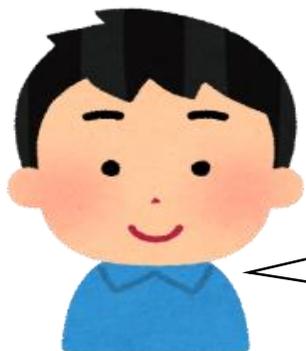


2つ以上の考えを比較する場合は、同じ表現方法のもの同士を比較する。



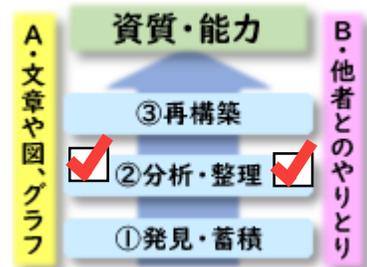
〇〇さんの式を図で表すと・・・

あまり3ってどういう意味か  
というと・・・



$35 \div 4 = 8$  あまり3  
 $8 + 1 = 9$  の+1 を図で表すと・・・

$8 + 1 = 9$  と  $8 + 3 = 11$  の  
ちがいは . . .



図で表すとそのちがいがよく  
分かるよ . . .

教師は、子どもたちの発言を引き出したり  
つなげたりするためのコーディネートをする。

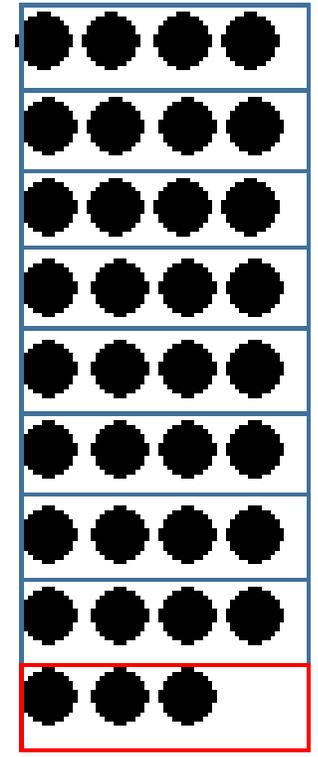


④交流したことをもとに、問題文の具体的な場面と問題解決の過程や結果を照らし合わせ、自分の理解を深めるには



問題：4人がけのいすがあります。  
 35人の子どもが全員すわるには、  
 いすは何台あればよいですか。

図



式  $35 \div 4 = 8 \text{ あまり } 3$   
 $8 + 1$

あまりの意味は？

+1の意味は？

答え 9台



問題：4人がけのいすがあります。  
35人の子どもが全員すわるには、  
いすは何台あればよいですか。



課題：文章問題の問いに答えるには、あまりはどうしたらよいのだろうか。

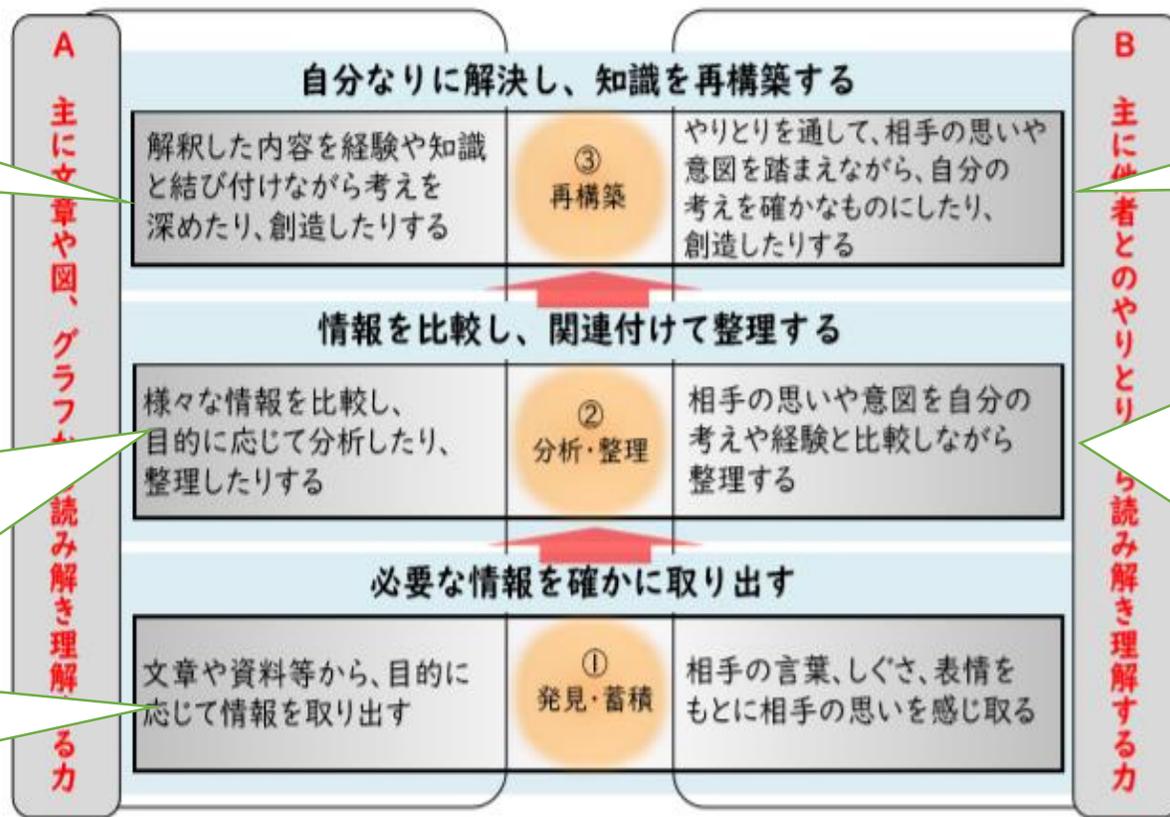
まとめ：今日の問題の場面では、全員がすわるために、残りの3人にいすを1台持ってくるから、+1をする。

- 1 単元目標
- 2 単元計画
- 3 本時の目標
- 4 本時の流れ
- 5 本時において、特に「読み解く力」を高め、  
発揮している児童生徒の姿
- 6 授業づくりのポイント
- 7 まとめ



【本時で身に付けたい資質・能力】

日常生活の中から数学の問題を見だし、日常生活の問題を除法で解決した結果、余りがある場合に、算数の処理の結果である余りに注目して、元の事象に当てはめた時にどのように解釈するか考えることができる。



あまりの意味は…  
+1の意味は…

あまりの意味は…  
+1の意味は…

35 ÷ 4 = 8あまり3  
誤：A. 8台or 8台あまり3人  
誤：A. 11台  
正：A. 9台 など…

「○さんの考え方を図で表すとどうなる？」  
「あまり3ってどういう意味？」  
「35 ÷ 4 = 8あまり3  
8 + 1 = 9 の+1って図で表すと？」  
「8 + 1 = 9と8 + 3 = 11の違いは？」

4人で1台のいすだから…式は、  
35 ÷ 4になりそう

目的意識

